

# 令和7年 自己点検・自己評価施設関係者評価報告書

令和8年4月1日

社会福祉法人 亀鶴保育所

幼保連携型認定こども園 亀鶴こども園

## 1, 本園の教育・保育目標

本園は、たくましく心情豊かな子どもの育成を目指します。健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培う。また、人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、そして人権を大切にする心を育てるとともに、自主、自立及び協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培う事を目標とする。

## 2, 本年に取り組むべき課題

職員一人一人が子ども主体の保育を目指し、園内研修に力を入れ取り組む。お互いの保育を見合う機会をもち、職員同士での気づきの時間をもったり、環境作りについて話し合ったりしながら、保育の質を高めていく。また、安全や防災に関する危機感をしっかりもち、安全計画やBCPに沿って、職員への周知徹底を行い、常に冷静な判断・行動ができるよう、一人一人の防災への意識を高めていく。

## 3, 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

5歳児は、丹波市のちーたんの館へ出かけたことをきっかけに、恐竜に興味をもち、絵本を読んだり、絵本を題材にした人形劇に取り組んだりした。絵本の内容から、強さや優しさについても考える機会となり、友だちや異年齢の子どもたちへの思いやりの気持ちにもつながっていった。

昨年に続き、異年齢交流「なかよしチーム」での活動も取り入れ、夏祭りや運動会など、一緒に楽しむ機会をもつことができた。また、日々の生活の中でも、声をかけたり、助け合ったり、応援しあったりと、お互いの存在を気にかけて気持ちを通わせる姿もみられ、温かいかわりを増やすことにつながった。

職員個々のキャリアアップに関しては、市の開催する研修のほか、兵庫県保育協会や保育団体の開催するものなどを積極的に受講し、スキルアップできるように取り組んだ。また、園内研修では、外部講師を招き、体育を通して子どもの心身を育まれることについて学んだ。専門性を高めることで、日々の保育の中でも意識しながら取り組むことができた。

保護者支援に関しては、悩みをもつ保護者と面談の時間をとり、成長の喜びを共有したり、子育てについて一緒に考えたりし、細やかな配慮ができるようにしたい。

学校関係者評価委員

社会福祉法人 亀鶴保育所

幼保連携型認定こども園 亀鶴こども園

園長

仮屋睦子

主幹保育教諭

芳川裕子

主幹保育教諭

長曾我部千秋

栄養士

木田英理子